

### \* 国立天文台構内の1等三角点、磁気点について

国立天文台構内に1等三角点があることを知っている職員はいても、実際に見たことのある人はそう多くない。天文台構内の北端の中央から少し西よりの所、39号官舎の西北20～30mといった所にある。今は笹藪と雑木の中である。この1等三角点の標高が58mである。この三角点の最近(2007年5月14日撮影)の様子が写真1である。



写真1 国立天文台構内の1等三角点(2007年)

国立天文台構内の1等三角点は比較的有名で、三角点をめぐる趣味の人も多く、案内を求められる事もある。アーカイブ室新聞110号、111号に記事を書いたが、測量史研究家グループ(標石グループ)が近いうちに国立天文台の中を見学に来る。その一団の幹事をしている飯島氏は、実は天文情報センター長渡部氏の官舎を訪問した事があり、渡部氏の勧めで天文台構内を散策されたそう。その際撮影した写真(写真2)を送っていただいたが、その変化には驚くばかりである。そしてその頃、三角点にそれほど興味もなかった筆者は当然ながらその頃の写真など持っていない。筆者は天文台官舎39号の東隣の天文台官舎38号に住んでいたのである。実は三角点のすぐそばに住んでいたのである。渡部氏が官舎に住み始めたのは20年位前のことだろう。

その頃、39号官舎に住んでいた天文台職員は家庭菜園をかなり本格的に耕作されていた。送られてきた写真は、まさにその様子を如実に物語っている。筆者もかなりの家庭菜園を楽しんでいたが、お隣には到底かなわなかった。



写真2 1994年頃の1等三角点付近の写真

この三角点は「三鷹村」と呼ばれているらしい。筆者は現在、国立天文台キャンパス委員会の委員をしているが、この三角点は雑木林、竹林に浸食されかかっているため、近くに大木やら、孟宗竹がはびこり、その根っこが三角点を動かしてしまいそうだと主張したことがある。三角点の周囲の木々、竹類は切り払っておく必要を感じている。



写真3 手前の石標が磁気点の標石だそう

さて、次は磁気点である。国立天文台職員にも天文台構内に磁気点などというものがあることを知っておられる人がいるのであろうか。筆者は知らなかった。地図が趣味といわれる標石の専門家は古い地図に天文台構内に磁気点の記号を見つけ、すでにその地点を極め、写真さえ撮っておられ、その写真（写真3）を送ってくださった。

写真3の磁気点といわれる石の位置は、菱形基線の南北を結んだ線上にあり、東西を結んだ線上より少し南にあったそう。確認しようと思うが、その付近は重力波望遠鏡建設のために大規模な工事が行われた領域である。実地調査をする前にこの記事を書いていることをお許しいただきたいが、昨日、そのあたりはくまなく歩いていた領域である。

この磁気点も天文台の貴重な歴史的観測器械などと同じような運命をたどったのであろうか。標石の無事を願わないではいられないが発見は難しそう。

測量史研究グループ（標石グループ）の見学会が終った時点で、その様子をお知らせしたいと思う。